

令和元年度 事業経過報告（概要）

日本技術士会栃木県支部が発足して9年目を迎えた。この間、数多くの会員の皆様の努力により、着実な活動を実践してきた。令和元年度は、次に挙げる方針をもとに組織運営を行い、ほぼ当初計画通りの事業を行うことができた。

- ① “会員の顔が見える会”をモットーに、会員及び協賛団体の交流・資質の向上を図る。
- ② “地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋”を目指した活動を展開する。
- ③ 産学官の連携を図りながら業務の拡大とともに技術士の知名度や委託業務の質の向上を図る。

以下、令和元年度の各委員会の活動概要を報告する。

《各委員会報告》

1. **総務委員会**：年次大会・講演会・報告会を開催した。併せて、会員・準会員の増加対策として、新合格者に対する歓迎会を行った。県支部情報が確実に伝達できるようメールリストを充実整備した。
2. **企画・研修委員会**：見学会(6月:環境小委員会、企画・研修委員会共催)、CPD研修会(7月:(参加者33名)、9月:(26名)、10月(20名)、秋の科学技術講演会(11月:宇都宮大学大学院客員教授渡辺裕氏を講師に迎え「AI(人工知能)技術の基礎」(44名))、12月期講演会(I部は栃木県支部幹事金澤政和氏、II部は日本技術士会前副会長中川裕康氏を迎え「技術士制度改革について」(39名)の講演を行った。令和2年2月には「技術士を志す方への情報提供講座」(21名)を開催した。
3. **企業支援委員会**：金融機関の企業融資にかかわる事業性評価について評価案を作成した。中小企業支援事業の専門家派遣制度、メンタ制度が打ち切られ中小企業庁の専門家派遣制度に移行したことより、制度への登録を進めた。栃木県中小企業支援制度中止に関し、令和元年1月17日(金)栃木産業振興ネットワーク推進会議が開催され、今後の支援活動について協議した。支部内で技術開発部門の課題などを論議した。令和元年(2回)、令和2年度の補正予算による中小企業支援事業に審査員4名を派遣した。市町村事業が中小企業を支援する動きがあるので支部での対応を協議した。
4. **広報委員会**：県支部の会報15号(8月)、16号(1月)の発刊、さらに県支部ホームページの運営をおこなった。また、会員や関連団体への広報活動と会員拡大の情報提供を発信した。技術士の知名度を上げるために、まちびあ主催の活動報告会および理科教室での技術士資格のPRを行った。
5. **国際委員会**：アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)を県支部が招聘した。(8月25日~31日、浙江省科技訪日団(12名)、企業経営(29名)、宇都宮大学、栃木県産業技術センター、県内企業(長府製作所、花王工場等)訪問、セミナー等を行い技術交流を図った。さらに、第11次訪中団(9月12日~15日、10名)、第12次訪中団(10月17日~19日:小黒支部特別顧問)を浙江省に派遣し、钱塘江逆流、京杭大運河、水利博物館等現地見学を行う他セミナー出席、科技交流中心との技術交流を深めた。第49回日韓技術士会議(韓国高陽市)には1名が参加した。
6. **産学技術交流小委員会**：企業支援第1回コラボレーションフェア参加(9月9日:宇大主催のブースに出展し技術相談、支部の紹介を実施)、鹿沼市中小企業支援協議会の委員として1名推薦登録し3回の協議会に参加、鹿沼市の中小企業支援事業に会員3名を派遣した。今年度も継続派遣する。
7. **地域支援小委員会**：フードバレーとちぎ推進協議会に参画、余笹川流域連携ネットワーク活動(9月)に参加した。
8. **環境支援小委員会(科学技術・理科教育小委員会含む)**：エコテック&ライフとちぎ(11月)に参加出展した。サイエンスカフェ(理科教育の一環)小中学校理科教育支援として(5月フェスタ my 宇都宮、9月エンジョイカガク帝京大、1月まちびあ祭り)に参加した。地域発展研究の為にいちかい浮島プロジェクトを受託し、廃校のプールを利用した調査及び今後の展開を検討した。以上